

第二戰線は何時何處に

オルチス・エチャーグ工筆

E

H

生

譯

ラ・ナシオナル紙掲載

何時か敵性國家群は自國軍部の作戦の劣悪さを世界及び自國民に向け暴露せんがために、如何にして信用され得べき戦況作戦を發表せんかに波々云々」と謂ふた所であるが、北米の沿岸を少し離れた所で兵を動かす毎に、彼等は第一攻勢だと宣傳してゐる。今般のソロモン大海戦を最初の敗戦ではないが、今日までの體面上發表もできまいが、要するに第一攻勢云々とはあるを得ない所以のものは、今日迄に何回となく發表した第一攻撃において自國民に威張つて示し得べき何等の戰果もないからにすぎないのだ、この次の第一攻撃を期して待たうか。

獨逸軍が石油を目指して大陸を進撃するオルガを目標として、晚夏の調子から推すと、シャから分離してしまふのではないか、そして若しもこれが實現を見るとすれば、スター・リングードの攻略に大した努力を拂はずに、むしろ冬季戦向き本年度においては、團結家群は、冬の極寒等を餘り當てることはできない。昨年のロシアにおける侵略軍の進撃は十月に停止されたといふても、今日では、獨逸軍に對するよりもロシア軍に對するよりもロシア軍に對する方がもろい機知である。何故なら獨逸は歴記の目と現はさんで即時に断行され、進撃は月曜日正午から午前零時半まで、其他獨伊ユース上映

（テレグラフ）

（テレグラフ）